

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字は、学年当初よりも定着度が増した。また、とめはねはらいを意識しながら丁寧に漢字を書く児童が多い。ただ、定着度には個人差が大きい。</li> <li>「書くこと」に関しては、意欲的に文章を書くことができる児童が多い。一方、文字を書くことや模写することに苦手意識をもっている児童がいる。</li> <li>物語文の学習では、叙述を基にして登場人物の性格や気持ちを読み取ることに慣れてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し練習する時間を設けたり、小テストを計画的に実施したりすることを続ける。</li> <li>教師が記入例を示し、学級全体に丁寧に指導する。その後、個別に書き方の指導と支援を行う。書くことが苦手な児童も意欲的に学習できるように、身近な内容を取り上げて学習計画を立てるようにする。児童に合った学習内容に変更することで、進んで学習することができるようにする。</li> <li>自分の思いや考えを表現する力が定着していない児童のために、友達の考えを聞き、伝えたいと感じさせられるように指導の工夫をする。</li> <li>センテンスカードを活用することでその時間の大事なポイントに焦点化し、児童が物語の読み方を身に付けられるように指導する。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>文京区の特徴や、文京区にある工場、神社について興味関心をもって学習に取り組んでいる。</li> <li>資料の読み取りに個人差が大きい。</li> <li>東西南北など、基本的な事項の理解が定着していない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材に関する資料を活用し、ポイントを焦点化する。学級全体で資料の読み取り方を指導し、苦手な児童には個別に資料の読み取りの指導を重ねる。</li> <li>日々の生活経験や身近な出来事と結び付けながら、基本的な知識の定着を図る。学習を進めながら、既習事項として学習内容を復習しながら活動させる。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>コースによって習熟度に違いはあるが、データを整理してまとめる活動などでは積極的に取り組む姿が見られる。</li> <li>自分の考えをもち、発表することができる。しかし、自分の考えを他者にわかりやすく説明することが難しい児童がいる。</li> <li>計算の仕方を理解できている児童は多いが、答えまでの過程や解き方について説明する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスごとに習熟度を見取り、必要に応じて焦点化しながら授業を展開する。また、身近な内容を具体的に例として取り上げ日常生活と関連付けて学習を進めることで、算数的な考え方を広げる。</li> <li>ペア学習を多く取り入れ、自分の考えを説明する時間を設ける。また、学習のペースが速い児童には、多様な考え方で問題を解き、説明することができるように指導する。友達に見せる際や自分で振り返る際に分かりやすいノートをつくるよう声掛けをする。</li> <li>技能的な計算や作図などでもなぜその式や図になるのかについて教師から問いかけることで、考えを表現するこ</li> </ul>	

	ことが難しい児童がいる。	とが苦手な児童でも短い言葉や図で考えた意図を表現できるように支援する。	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験に関して意欲的に取り組む児童が多い。</li> <li>経験を生かした仮説をたてられる児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活を振り返り、様々な事象と関連付けて考えさせることで、予想や仮説がたてられるようにする。それでも難しい児童には、個別に日常生活について一緒に振り返り身近な経験から考えることができるようにする。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダーへの興味関心をもって学習に取り組む、音色や奏法に親しんでいる。正しい奏法の定着の様子を個別に把握しながら指導を続ける必要がある。</li> <li>元気な声で楽しく歌うことができる。旋律の音の動き方や拍子を感じ取って歌う学習を今後も継続し、旋律の特徴に気付けるようにしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短い言葉での指示を続け、準備をルーティーンにして習慣付くようにし、ちょうどよい息遣いや姿勢を保持して吹けるようにする。舌の動きだけを確認する時間を設けるなど、ポイントを明確にした学習で奏法の定着を図り続ける。</li> <li>安心して歌える学習環境を整え続け、お互いの声を聴き合いながら歌うように促す。旋律を歌う時間と聴き取る時間を設け、旋律の特徴を気付きやすくする。</li> </ul>	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい画材や技法への興味・関心が高い。</li> <li>画材や道具などの扱いが雑になってしまうことがある。</li> <li>身近な自然や人工物に触れ合う経験が少ない。</li> <li>鑑賞で自分の作品や友達の作品の良さを見つけることが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい画材や技法の指導を丁寧に行い、児童の興味、関心を持続できるようにする。</li> <li>画材や道具の正しい扱い方について図などを用いて分かりやすく示し、物を大切に扱うように指導する。</li> <li>木の枝などの自然物を用意し、自然と触れ合う機会を増やす。</li> <li>教師が率先して作品の良い部分を伝え、児童に鑑賞するポイントを掴ませる。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすこと自体を楽しんでいる児童が多い。一方、苦手な運動領域では、意欲が低い児童もいる。</li> <li>ゲームで勝敗にこだわってしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの児童でも活躍できる場を設定したり、スモールステップでの課題を設けたりすることで、様々な運動にすすんで取り組むことができるようにする。</li> <li>勝利を目指して活動すること自体は認めていく。友達の良い動きを見つけて伝え合う時間を設定する。友達にポジティブな声掛けをしている児童の行動を価値付けていく。</li> </ul>	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の意見を真剣に聞き、多くの意見を柔軟に取り入れようとする姿勢が見られる。一方で、自分の意見を発表する児童とそうでない児童がいる。</li> <li>道徳的価値を、教材文の出来事としてのみ捉えていて、自分の経験を振り返ることまで繋がらない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワークや視覚的な仕掛けを充実させ、児童の意見の共有化を工夫していく。また、選択肢を提示するなど、全員が意見をもてるようにする。</li> <li>自己について振り返る時間を確保する。似たような経験がないかを問いかけたり、机間指導で個別に声掛けをしたりする。</li> </ul>	
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会科の学習を生かして、学校のまわりの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きなことを好きなだけ調べるのではなく、目的意識を</li> </ul>	

	<p>様子について意欲的に調べたことをまとめられるようにリーフレット作りを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に調べる姿勢は見られたが、情報を精査、まとめる、表現するなどの様々な力の定着はあまり見られなかった。特に個人の差が大きい。</li> </ul>	<p>もたせる。社会科の「わたしたちの文京区」と関連付けて、自分たちが住んでいる地域にはどのような取り組みがされているのかについて多角的な視点で詳しく調べまとめ、発信していく力を身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合の学習では特に調べる、まとめる、発表することなどのどこの過程を頑張りたいのかを目標を具体的にもたせる。</li> <li>完成させるまでの時間を伝えることで見通しをもって探求し、学習を進めることができるようにする。</li> </ul>	
<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に友達やALTとのコミュニケーションを図っている児童が多く見られた。</li> <li>一方、英語で自分の思いを表現すること、ALTの英語を理解することに苦手な様子が見られる児童もいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTの話している内容を、担任がゆっくり説明を加えることで、外国語の活動に少しずつ参加しようとする姿が見られた。今後も継続する。</li> <li>また、ALTと担任が内容を確認するなど、個別に対応が必要な児童の情報交換を行うことで全員が参加できるようにする。</li> </ul>	